

儲かるための藻場造成活動

大隅地域振興局林務水産課

【背景・目的】

地先海域がほぼ全域磯焼けの状態となっている高山漁協では、漁協青壮年部が中心となって藻場保全会を立ち上げ、平成20年度から環境・生態系保全活動支援事業を活用して積極的に藻場造成活動に取り組んできた。また、平成25年度からは水産多面的機能発揮対策事業を活用し、高山磯焼け対策チームとして活動を行っている。

これまで、高山漁協青壮年部は藻場保全活動が所得向上につながるように、環境・生態系保全活動支援事業とは別の取組として、食害生物であるウニなどの利活用等について取り組んでおり、平成25年度からはヒジキ増殖に取り組むこととした。

【普及の内容・特徴】

1 ヒジキ母藻の確認

事前にヒジキ増殖のための母藻を牛根漁協の牛根一本釣り船主会から提供してもらうことで調整し、5月7日、21日にヒジキ母藻の確認を実施した。21日の確認作業では生殖器床が成熟してきているのが確認でき、これを受けてヒジキ母藻刈り取りを大潮の干潮となる5月27日の午後に実施することとした。

2 ヒジキ母藻刈り取りと母藻投入

5月27日に垂水市牛根境港にて高山漁協青壮年部、牛根一本釣り船主会等のメンバー11名で母藻約45kgの刈り取りを実施した。刈り取った母藻は当日中に高山漁協青壮年部員で高山漁協揚場にてスポアバック15袋に詰め込み、翌28日に高山漁協の脇の海岸に投入した。

3 追跡調査

3月10日に青壮年部員で母藻投入箇所にてヒジキの追跡調査を実施した。

【成果・活用】

追跡調査の結果、母藻投入箇所にて20～50cm程度に生育したヒジキを5株のみ確認した。母藻投入時に普及員が作業に立ち会えなかったことから青壮年部員に投入を任せたものの、後日投入箇所を確認したところ、現場は砂の堆積し易い場所でヒジキ増殖に適さない場所と思われた。

今回のヒジキ母藻刈り取り・投入作業については環境・生態系保全活動支援事業から水産多面的機能発揮対策事業への切り替え時期のため、高山漁協青壮年部のボランティア活動となった。そのため、用船料等を確保できず、ヒジキ増殖の適地への投入ができずに母藻投入しやすい場所に投入する状況となった。それでも、砂地の転石に僅かながらヒジキが生育したため、適地をしっかりと選定したうえで母藻を投入すればヒジキ増殖は可能と考えられた。

【その他】

平成26年度以降は水産多面的機能発揮対策事業を活用し、用船料等を確保したうえでヒジキ増殖作業の規模を拡大して実施していく予定である。



牛根一本釣り船主会との母藻刈り取りの協議



成熟した生殖器床



牛根地区での母藻刈り取り



スポアバッグへの詰め込み作業



翌シーズンに母藻投入地点で生育してきた天然ヒジキ①



翌シーズンに母藻投入地点で生育してきた天然ヒジキ②